

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: <http://www.elv.or.jp/>

## 回収高度化事業 事業報告

前号でもお伝えしたとおり、3月31日(月)の環境省への成果報告書の提出をもって、平成25年度回収高度化事業は終了しました。あらためて事業にご参加くださった会員の皆様、ご協力くださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

本事業の成果は以下のとおりです。

### 1. 貴金属等の回収事業

37団体260事業所が参加

#### ■事業内容

エンジンコンピューター基板とエアバッグコンピューター基板を回収。  
→ 回収物品の高品位化を目指すため、基板の分類基準を策定し、回収した基板を3つのグループに分類した。

#### ■事業結果

回収目標=3つのグループの基板をそれぞれ1トン以上回収すること。  
→ 各参加事業所にて回収した基板を3つのグループに分類して、それぞれ1トン以上の回収量を確保することができた。  
→ 分析結果から、分類基準の正確性をうかがうことができた。

### 2. ネオジム磁石の回収事業

26団体71事業所が参加

#### ■事業内容

HV車のモーターに使用されているネオジム磁石を回収。  
→ 回収量を確保するため、回収規模を全国へ拡大した。  
→ 回収の全国展開にともなって、作業内容をわかりやすく周知するため、動画にて回収マニュアルを作成した。

#### ■事業結果

回収目標=ネオジム磁石を200kg以上回収すること。  
→ 各参加事業所にて分解・消磁・磁石取り出しの作業を行い、300kg以上の磁石を回収して買取をしてもらうことができた。

詳細につきましては、会員の皆様には、過去3年度分の結果をまとめた資料を作成していますので、後日あらためてご報告させていただきます。また、平成25年度回収高度化事業の成果報告書は、このたび環境省のホームページに掲載されましたので、ご確認いただければ幸いです。

《成果報告書掲載ページ》

<http://www.env.go.jp/recycle/car/material5.html>

↑平成25年度自動車リサイクル連携高度化事業  
(使用済自動車に含まれる貴金属等の安定的な供給・リサイクルに関する実証事業)業務



## 目次

巻頭言	..... 1
トピックス1	
回収高度化事業	..... 1~2
トピックス2	
ブロック会議	..... 2
ELV機構活動ニュース	..... 3~4
会員活動ニュース	..... 5
鉄スクラップ最新情報	..... 6
行事予定・お知らせ	..... 7
編集後記	..... 7

## 巻頭言

新年度がはじまり、真新しい教科書を抱えながら、「パパの仕事が載っていたよ」と娘が目を輝かせながら私に教えてくれました。以前から自動車リサイクルが掲載されているのは聞いていましたが、その嬉しさを体感いたしました。以前、先輩の同業の経営者の方に創業から現在までのお話を聞く機会がありました。その中で忘れられない一言があります。「子供が誇りをもって働ける職場をつくるために頑張ってきた」と私の目を見ながら振り返っていただきました。事業承継は、私たち業界のみならず多くの会社が抱える問題だと思いますが、受け渡す側、受け取る側、想いと行動、対話が大切だと私は思います。

(広報部会 平地 健)

# ブロック会議 開催報告

4月に各地でブロック会議が開催され、本部より平成25年度事業報告、平成26年度事業計画の発表を行い、組織の活動強化及び会費見直しについて、以下のような説明を行いました。

## 1. 組織の活動強化について

資源循環事業等、地域事業への参加は、地域団体に所属していなければ参加できないため、今後、ELV機構の活動をブロック・地域を中心とした活動に移行していきます。

- ◆ 全国のブロック・地域団体は、地域によって課題が異なるため、地域団体・ブロック間の積極的交流を行っていきます。
  - ブロック長会議やブロック会議・ミーティングの開催頻度を上げる。
- ◆ ブロック長の役割強化により、ブロック長にはその役割の中でブロックでの事業を検討するなどブロック活動の活性化を図ります。
  - ブロック活動の活性化は、ELV機構の発展につながり会員の事業発展につながる。
  - ブロック長が部会や委員会等へ参画することによって、スムーズかつスピーディーな本部・地域間の情報伝達につながる。

## 2. 会費の見直しについて

業界の置かれている立場をより改善していくためには、ブロック活動の活性化が重要な鍵となります。地域の意見を吸い上げるためのブロック活動や地域の意見集約も重要です。これまで以上の活動を行うため、会費の見直しを検討しています。

- ◆ ELV機構の組織力を上げるため、ブロック活動に予算を盛り込み、地域活動の充実を図ります。
  - ブロック長会議、ブロック会議、ミーティング等の開催頻度を上げることが可能となり、ELV機構の活動に対する理解促進につながる。
  - インストラクターや次世代を担う若手がELV機構の活動に積極的に参画できる環境づくりを行う。
- ◆ 自動車関係団体等の定期交流会参加やロビー活動の強化を図ります。
  - 自動車関係諸団体等と同じテーブルにつき、業界の意見を反映するための地位確立を目指す。
  - 情報収集やメッセージ発信により業界の権益確保に向けた事業推進につなげる。
- ◆ 自動車リサイクル士制度認定講習会を活かした取り組みを行います。
  - 資格取得者の在籍する事業所を対象とした優良事業者制度を創設する。
  - 差別化や社会的認知の向上を図り、顧客への信頼向上につなげる。
  - 関連団体等に自動車リサイクル士制度を広げていくことにより、自動車リサイクル制度の安定的な運用につなげる。

以上の活動を実現するためには、現状の運営費用では限界があるため、常任役員会、理事会は、会費月額2,000円の値上げ案を社員総会に諮ることを決定しました。

## ブロック会議開催日程

4月11日(金)  
・ 近畿ブロック会議

4月22日(火)  
・ 東北ブロック会議

4月14日(金)  
・ 中部北陸ブロック会議

4月26日(土)  
・ 中国四国ブロック会議

4月19日(土)  
・ 九州ブロック会議

ご参加くださった方々、  
ありがとうございました。



## ブロック長会議、今後の方向性を議論

理事会の前日3月27日に、「平成25年度 第2回 ブロック長会議」が開催されました。各ブロックより新旧のブロック長、本部より常任役員数名の出席の中、報告・審議事項について意見交換が活発に行われました。報告事項では、自動車リサイクル士制度や回収高度化事業などに関する話し合いがありました。その後、様々な課題を参加者全員が共有し、今後の方向性に対して積極的な議論が行われました。具体的には、組織の在り方や会費の見直しなどの課題を共有しながら、ブロックごとの課題や現状を協議しました。

今後の方向性の議論の中で、“ブロック活動の活性化”が第一に挙げられました。自動車リサイクル士制度認定講習会等では、ブロック内の適正処理の推進や不適正処理の撲滅を図って地域に広げること、また、今まで3年間続けられた環境省受託事業「自動車リサイクル連携高度化事業」(回収高度化事業)では、これまでの体制を基に、個社での取り組みでは解決出来ない“回収量の確保と”いう課題を地域やブロックで取り組むことで解決出来ることなどが今後の活動の大きなポイントとして議論がなされました。

上記の活動のほかにも、地域やブロックでは様々な活動が行われています。これに関して、会員の方々の声を聴く機会を多くすることなどを協議し、ブロック長が地域の意見を本部に伝える機会を今まで以上に設けなければならないと提案しました。

その後、次期ブロック長会議長1名、次期副ブロック長会議長2名、それぞれ候補を選出し、全国で開催される自動車リサイクル士制度認定講習会の開催時期を確認しました。

今後、様々な場面で意見交換や交流が行われる予定です。どの場においても会員の皆様のご協力が不可欠であると再認識しました。

(東北ブロック ブロック長 平地 健)

## 理事会、会費見直しに関して意見一致

平成26年3月28日、ELV機構本部会議室において、第2回理事会が開催されました。代表理事、副代表理事、各ブロック長、理事16名が参加し、酒井総務部会長の進行で活発な討議が行われました。

総会を6月12日に控え、議題も平成25年度事業報告、決算報告と前年度の報告がなされた後、河村二四夫代表理事から平成26年度の事業計画が発表されました。

特に平成25年度の主たる事業であった自動車リサイクル士制度認定講習会ならびに自動車リサイクル連携高度化事業は、これからのELV機構における事業の大きな柱となることから、平成26年度は前回の課題を整理しながらも、さらに取り組みを強化することを確認しました。その他の事業としては、自動車リサイクル法10年目の見直しに向けた活動、また受託事業である「エアバック車上作動処理新規契約事業者安全作業指導」も継続して実施されます。部会としては、広報部会においてはさらなる情報提供の強化、また未来政策部会はセミナー開催を通じて地域、団体を越えた若手経営者の交流を促進するなどの活動計画が発表されました。

最大の課題である会費の見直しに関しては、見直しは必要不可欠との意見が一致したことで、各地域団体の会員の理解を得られるよう各ブロック長が地域団体長とともに、会員に対し広く理解を求めることで合意しました。



[↑写真：理事会の様子]

## 本年度より広報部会に自再協が参加

平成26年4月14日(月)、平成26年度の第1回広報部会が開催されました。本年度の広報部会より、自動車再資源化協力機構の方々にも御参加いただき、毎月情報交換をさせていただくことになりました。今回は、管理部 部長の小林秀明様、マネージャーの柴田芳徳様、理解促進グループグループリーダーの藤嘉一様から大変興味のある情報を御提供いただきました。

フロン類回収については、EU規制により2017年からはGWP(地球温暖化係数)が全ての車両で150を超える冷媒は使用禁止になるのを受けて、日本でもHFC(GWP:1,430)からHFO(GWP:4)への移行が今後予測され、現在回収機の技術基準が検討されているとの事でした。新規冷媒HFOになれば、リサイクル法上の回収義務がなくなることや、冷媒自体の量産体制が整っておらずまだまだ高価なものであることなどを教えていただきました。HFOへの対応に関する情報は国の審議会や環境省のホームページなどで閲覧できますので、興味のある方は是非ご覧ください。



[↑写真:自動車再資源化協力機構の方々]  
(左)小林様、(中央)柴田様、(右)藤様

エアバッグ類のインフレーターについては、作動時に高温になるので、可燃性のもの(紙や埃など)が近くにあると引火し火災に至る可能性があるとの事です。特に、長期間保管されていた車両はインフレーターに堆積した埃に引火する可能性があることから、車上作動処理後に車両を一時保管する場合は注意が必要です。また、火災等の事故が発生した場合、自動車再資源化協力機構への連絡は「契約取消し」などを考えてしまい敬遠されがちですが、今後の事故防止、皆様を怪我等から守るために是非とも速やかなご連絡をお願いします。その情報を受けて現場検証が行われ原因が明らかになれば、早期に適切な対策が確立できることにも繋がります。社会的な義務として私達業界も現場の情報を提供し、相互に協力し合い「安全で適切な作業」を目指していきましょう。

## 定期社員総会のご案内

平成26年度定期社員総会の日程は、以下のとおり決定いたしました。出欠連絡の方法など、詳細は追ってご連絡させていただきます。

### 平成26年度 定期社員総会

開催日 平成26年6月12日(木)

#### ■第1部 定期社員総会

13:00 ~ 14:00 / 12:30受付開始  
田中田村町ビル 8階 8E会議室  
(住所:東京都港区新橋2-12-15)

#### ■第2部 会員交流会

14:15 ~ 15:45 / 13:45受付開始  
※場所は第1部と同様

#### ■第3部 懇親会

16:00 ~ 18:00 / 15:30受付開始  
STANDARD会議室 新橋フォーラム店  
B1Fホール  
(住所:東京都港区新橋1-17-2第二光和ビル)

## 講師養成講習会のご案内

自動車リサイクル士制度認定講習会における講師養成のための講習会が開催されます。詳細は追ってご連絡させていただきます。

### 平成26年度 講師養成講習会

開催日 平成26年6月13日(金)

開催場所 5東洋海事ビル会議室D  
(住所:東京都港区新橋3-2-5)  
(<http://www.forum-s.jp/daigotoyo.php>)

講習時間 10:00 ~ 15:00

#### ※受講対象者※

各ブロックの自動車リサイクル管理士の資格保有者の中から、各ブロック長が講師候補として受講対象者を選出します。

## 会社での車両火災発生、その対策とは？

先月3月24日、(株)大八商会で車両火災が発生しました。午後5時2分にその日の解体作業を終えて、社員たちが解体工場から立ち去った数分後に出火。その数分後に近隣から連絡が入り5時7分には工場へ急行。この間、わずか5分ですが、火の海という表現がぴったりな燃え方でした。消火器を使用して消化活動を開始し、即座に鎮火しましたが、写真のような状況でした。

翌日消防署による現場検証が3時間かけて行なわれました。出火した車は平成11年の乗用車。距離は64,000キロ。エアバッグ(以後AB)を展開しただけで、解体作業を行なう直前の段階の車でした。

解体直前には長距離走行しておらず、エンジンは冷えており、ボンネットから出火した形跡は無く、放火の跡も無い。出火場所は、車の燃え方から運転席とのことでしたが、出火原因は不明。なお、車両火災が発生した場合、「燃料タンクは、車のボディの外側に鉄板で仕切られているため、今回のように消火器による初期消火程度の車両火災なら通常引火しないが、炎が人の高さを超え、放射熱で近寄れず、消火器での消火作業が困難な場合は、危険なので消防車に任せて欲しい」とのことでした。

当社では以下の対策を取ることにしました。

### 対策

- 作業終了30分前になったらAB展開作業を行わない。
- 解体工場から立ち去る前にAB周辺に水をまく。

今号の4ページ「本年度より広報部会に自再協が参加」の記事にもあるとおり、原因不明の火災等が発生した場合、同様の事故を防止するためにも自動車メーカー等による原因調査が重要なので、速やかに自再協に連絡するとともに車は保管しておくことがポイントのようです。

(株式会社大八商会 小宮山 敬仁)



[↑写真：火災が発生した車両(鎮火後)]

## 大分県から講師依頼

平成26年4月24日(木)、大分県において、自動車リサイクル法を担当している保健所職員を対象とした研修会が開催されました。この研修会において、ELV機構の湯浅隆雄九州ブロック長が大分県の生活環境部より講師依頼を受け、自動車リサイクル法解体業登録・更新に係る立ち入り実施のポイントについて講師を務めました。

当日は、大分県の保健所職員の方が17名参加し、湯浅ブロック長は、標準作業書の変更点や保管台数等の確認、安全作業について説明を行いました。

今回の講師依頼は、昨年11月に開催された九州ブロックの自動車リサイクル士制度認定講習会に大分県の職員の方が参加されたことがきっかけになっています。今後も、自動車リサイクル士制度認定講習会を通して知識を身につけることが大事であり、全国でもこのような例が増えてくると思います。

(リサイクル技術部会 伊地知 志郎)

## 島根県と協定締結



[↑写真：島根県との協定書締結式の様子]

平成26年3月24日、山陰ELVリサイクル協議会は、島根県と「災害時における被災車両の撤去等に関する協定」を締結しました。

この協定は、島根県内で災害が発生した際、県が市町村から依頼を受けて同協議会へ支援要請をする際の必要事項について定めたものです。

## ■ 4月第4週(22日)の鉄スクラップ動向 ■

[ 提供 / 日刊市況通信社 ]

### 輸出市場、価格伸び悩みも底堅さ持続

日本産鉄スクラップの輸出市場は、韓国電炉メーカー大手の現代製鉄が高値契約に難色を示していることなどから伸び悩み感が出ている。しかし、韓国の中堅電炉向けや台湾・ベトナム向けの商談が進んでおり、実際に積み出される5月に向けて、底堅い動きとなっている。

韓国向けの輸出商談では4月第3週、複数の中堅電炉がH2を1トンあたりFOB33,000円どころで成約したもようだ。現代製鉄の前週の提示価格はFOB32,000円どころだが、台湾やベトナム筋が日本産スクラップの手当てを続けているため、韓国の中堅電炉もこれら諸国並みの価格を提示し、成約に至った。

日本国内の鉄スクラップ市場では、すでに輸出価格の水準まで上げ戻したことや電炉筋の生産が伸び悩んでいることなどから、ゴールデンウィークを前に相場に一服感も出ている。ただ、現在の輸出成約分は5月に積み出されるため、これが5月の国内相場を支える要因となりそうだ。



### 【関東地区】電炉筋、様子見姿勢で横ばいのままGWを迎える見通し

#### 4月22日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	31,000	~ 32,500	様子見
	南関東	31,000	~ 32,500	様子見
名古屋		30,500	~ 32,000	様子見
関西	大阪	32,000	~ 33,500	様子見
	姫路	31,500	~ 32,000	様子見

関東地区では、電炉各社は様子見姿勢を維持している。電炉筋の生産動向は、鋼材需要が伸び悩む中、需要見合いの生産に徹しており、GW期間中の生産水準が例年に比べて低くなる見込み。既に足元の輸出価格に見合う水準まで購入価格を値上げしてきたため、様子見姿勢のままGWを迎える見通しだ。H2炉前実勢価格は31,000~32,000円中心、高値32,500円見当。H2浜値は31,000~3,1500円中心、一部高値32,000円見当。

### 【東海地区】メーカー静観筋多く堅調横ばい 湾岸への出荷の動きも

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、堅調様子見気配となっている。地区内の電炉メーカーは、4月後半入りの直後に2社で再値上げへの動きが見られ、実勢値の上値は上伸したものの、残る半数のメーカーは一部品種の追加上げにとどめている。業者筋では、荷動きは全般に低調感ながら、湾岸の輸出ヤードディーラーの好値集荷筋へ出荷繰りを進める動きも見られる。H2炉前実勢価格は30,500~32,000円中心、高値32,500円見当。

### 【関西地区】裏値対応残るも徐々に落ち着き気配、市況は4月第4週がピークの声

大阪地区では、水面下で実勢レベルを上回る引き合いが聞こえつつも、一部電炉筋の炉休入りに加え、GW期間中の来週前半は製品環境難により、製鋼を休止する動きが複数見られることで、需給双方とも4月第4週を市況のピークと意識する声が多い。H2炉前実勢価格は32,000~33,000円、一部高値33,500円。姫路地区ではもともとスクラップ在庫の水準が高く、入荷減の傾向ながら逼迫感は弱い。H2炉前実勢価格は31,500~32,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、4月22日午前時点のもの)

# 行事予定

## ■5月の主な予定

**5月8日(木)**

・ポーランドのELVスタディーツアー  
(河村自動車工業 訪問)

**5月9日(木)**

・ポーランドのELVスタディーツアー  
(ユーパーツ 訪問)

**5月13日(火)**

・第2回 広報部会

**5月14日(水)**

・ポーランドのELVスタディーツアー  
(シーパーツ 訪問)

**5月17日(土)**

・ELV九州全体報告会

**5月29日(木)**

・第2回 常任役員会  
・自動車再資源化協力機構  
設立10周年記念懇親パーティー

**5月30日(金)**

・第2回 リサイクル技術部会



## お知らせ

### ■会員数(2014年4月現在)

会員=659社/賛助会員=28社

### ■新規ご入会者のご紹介(2014年4月ご入会)

#### 会員

千葉県印旛郡  
「有限会社 シラニカ・エンタープライズ」様



### ■ポーランドのELVスタディーツアー実施

このたび、ポーランドの自動車リサイクル団体(Polish Vehicle Recycling FORUM Association FORS)が日本の自動車リサイクル団体を訪問し、見学・意見交換などを行うELVスタディーツアーを実施します。

このスタディーツアーはポーランドの環境省から話を受けた日本の環境省より、ELV機構に対して依頼があり、ELV機構が会員事業所の見学・意見交換を設定したものです。

5月7日(水)よりFORSのメンバー20名ほどが10日間の日程で来日することになり、以下のような日程で会員事業所を訪問する予定です。

- 5月8日(木) 河村自動車工業(山梨県・韮崎市)
- 5月9日(金) ユーパーツ(埼玉県・熊谷市)
- 5月14日(水) シーパーツ(山口県・美祢市、岩国市)

## 編集後記

4月から消費税が5%から8%へと引き上げられ、それに伴いあらゆる物価が値上がりの傾向を見せております。▲それに便乗したわけでは決してありませんが、今号にも載せてありますように、我がELV機構の会費見直しも逼迫した課題です。河村代表理事も全国のブロック会議に出向き、会員皆様に懸命にその趣意を説き、全国行脚をしております。しかしながら、至って風当たりは厳しく、アゲンストの風が吹いているように見受けられます。▲人の心理は一様で、たとえ10円でも値上げとなれば眉を潜めたくなるもの。しかしながらELV機構の存続、業界の将来を案じれば、この会費見直しは極めて重要な案件と言えます。▲幕末、長岡藩の財政が困窮した時、三根藩は救援として米百俵を贈りました。長岡藩の藩士はこれで「飯が食える」と喜びましたが、藩士・小林虎三郎は贈られた米を分け与えず、将来のためと米を売却しその資金で学校を建てたのです。有名な「米百俵」の故事です。▲この故事に習い、この度の案件、将来への投資と皆様のご理解を賜るところです。

(広報部会 部会長 永田 則男)